

静岡県東部地域の活性化を考える

2010年度のあゆみ

飛躍

ごあいさつ



サンフロント21懇話会
代表幹事
スルガ銀行社長

岡野光喜

地震、津波、原発事故、風評被害。2011年3月に発生した東日本大震災はこの4つが一度に起き、東北、北関東を直撃しました。

戦後最大の国難といわれる理由は、ここにありません。被災された方々に、あらためまして心よりお見舞い申し上げます。同時にスピード感ある復旧・復興の推進を願っております。

原発事故は電力不足を引き起こし、電力の需給均衡を確保するため計画停電が行われました。東京電力管内の静岡県東部地区も対象となり、暮らしや企業活動に影響が出ました。しかし、いつまでも下を向いてはいられません。先人たちは困難に直面した時ほど英知を結集し、創意工夫で乗り切ってきたことは歴史が証明しています。

私たちの懇話会活動も同様に、たくさんの知恵を出し合い、活かすことが重要です。2010年度に伊豆、富士、東部の各地区分科会で取り上げた滞在型観光や食によるまちおこし、コンベンションは変化の激しい時代だからこそ、真剣に考えたいテーマです。

ここ数年、活動目標に掲げてきた広域行政やファルマバレープロジェクトの推進支援、コンベンション機能の促進支援、富士・箱根・伊豆を束ねた広域観光の促進は、そのいずれもが、すそ野の広いテーマです。もう一段掘り下げて議論したいと思えます。そして1つでも多くの議論を実践につなげられるよう、今後も会員皆様方のご支援、ご協力をお願いします。



静岡新聞社・静岡放送
社長

松井 純

2010年度末の3月に発生した東日本大震災は自然の怖さをあらためて教えてくれました。被災地の皆様方にお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興をお祈りしています。東海地震の発生が予想される本県は、津波対策や原発の安全運行などで、1つでも多くの教訓を学ばなければなりません。

2010年度に伊豆・富士・東部の各地区分科会で議論した滞在型観光、食によるまちおこし、コンベンションはそれぞれに重要なテーマです。特に「キラメッセぬまづ」を取り上げた東部地区分科会は未来志向の色濃い議論が展開されました。

キラメッセぬまづはサンフロント21懇話会が県、沼津市に提言したことがきっかけで建設されたという経緯があり、その施設が10年度末で閉館し、13年度には県東部コンベンションセンターの展示イベント施設として生まれ変わります。

県東部が中西部に比べ、いまひとつパワー不足を感じるのはコンベンション機能に欠けることが、理由の1つといわれています。これでハードは整います。問題はソフト面です。

10年度の活動目標に掲げたコンベンション機能の促進をはじめ、広域行政やファルマバレープロジェクトの推進支援、富士・箱根・伊豆を束ねた広域観光の促進は、それぞれが県東部の将来を決定づける重要なテーマです。

今後も、これまで以上にさまざまな視点から議論を深めたいと思えます。引き続き、ご支援、ご協力をお願いします。

■ ごあいさつ	3
■ 2010年度のあゆみ	4
<hr/>	
■ 特集 I	
キーパーソンに聞く東部の将来像	6
<hr/>	
■ 特集 II	
ファルマバレープロジェクト10年の歩み	8
<hr/>	
■ 特集 III	
広域圏で観光振興	10
<hr/>	
■ 特集 IV	
コンベンション機能の促進	12
<hr/>	
■ 特集 V	
広域連携	14
<hr/>	
■ サンフロントから情報発信	
ラジオEAST	16
新聞特集記事「風は東から」	17
<hr/>	
■ 2011年度活動方針	18
<hr/>	
■ サンフロント21懇話会会員名簿	20
<hr/>	
■ 運営委員長挨拶	27



2010年度は3月11日に発生した東日本大震災による歴史的な混乱の中で幕を閉じました。東北沖の地震に伴う大津波が一瞬のうちに、多くの尊い命と暮らし、思い出までも奪い去ってしまいました。何より心配なことは、放射性物質の拡散が指摘される東京電力福島第1原発の事故です。被災地の皆様方にお見舞い申し上げるとともに、1日も早い復興をお祈りします。

原発事故は電力の需給バランスを保つために「計画停電」という耳慣れない言葉となって、私たちの静岡県東部地区にも影響を及ぼしました。電力は日々の生活はもちろん、企業活動に大きな影響を与えます。震災前に大きな課題だったデフレや円高、超氷河期といわれる雇用情勢を忘れてはなりません。復興後の日本経済はどうか。まずは、年間で最も電力需要が増す夏場の電力不足を回避できるかどうか、一つの試金石となりそうです。

経済の活性化には人、モノの交流が欠かせません。ここ数年、活動方針の1つに掲げてきたコンベンション機能の促進は県東部の活性化にとって重要な地域戦略です。サンフロント21懇話会の提言を機に計画が動き出した大型多目的展示場「キラメッセぬまづ」が今年3月、12年間の歴史に幕を閉じ、東部コンベンションセンターの展示イベント施設(2013年夏オープン)としてリニューアルされることになりました。約10年間の暫定施設とはいえ、平均稼働率73%と高い支持を得た背景には県東部の潜在力と将来性をうかがわせました。

私たちを取り巻く時代環境は大きく動いています。例年にも増して会員皆様方の強力なご支援、ご理解を賜りたく存じます。

2010年度のあゆみ

静岡県知事
川勝 平太
「私の描く東部振興策」



阿蘇地域振興デザインセンター
事務局長
坂元 英俊
「滞在型観光の仕組みづくり
～どう生かす 伊豆の特徴～」



◆2010年5月 活動記録「飛躍」発行

2009年度の活動内容をまとめた冊子「飛躍（A4判、28頁）」を発行した。内容は総会、分科会など活動の足跡をはじめ、富士山静岡空港開港をチャンスととらえる観光振興、ファルマバレープロジェクトで加速するベッドサイドクラスター、にぎわいの拠点東部コンベンションセンター計画、そして広域行政の推進など。2011年度の活動方針も紹介した。

◆2010年5月31日 200人出席 2010年度総会

2010年度総会には企業経営者や首長、県議ら会員約200人が出席。広域行政やファルマバレープロジェクトの推進支援、コンベンション機能の促進支援、観光活性化を軸にした活動目標を決めた。議事に続き、川勝平太知事が記念講演した。

知事は「私の描く東部振興策」と題して講演。東部を「美と健康が調和した、ふじのくにの理想郷」と位置づけ、ポテンシャルの高さに触れながら持論を展開した。

◆2010年7月27日 140人出席 伊豆地区分科会

伊豆地区分科会では「観光圏」をテーマに、講演やパネル討論を通じて観光地が連携した滞在型観光地づくりを考えた。

観光圏は2泊3日以上滞在できるエリアづくりを進める制度。伊豆半島2市3町（伊東、下田、東伊豆、河津、南伊豆）を圏域とする「伊豆観光圏」の整備実施計画が2010年4月、国の認定を受けた。

パネル討論では、観光関連団体代表や観光行政担当者3氏が、人づくりや企画・コーディネート機能の充実など、観光圏を有効に機能させるための方策を提案した。



◆2010年12月20日 90人出席 運営委員会・全体会

浜松医大名誉教授の高田明和氏が、「脳は若返る一ストレス社会を生き抜く」と題して講演した。

高田氏は「病気になるように努力しても、年齢を重ねると抵抗力が弱まるのは自然なこと」と語り、変化する状況にどう対処するかを知ることが大切とした。

全体会に先立ち、運営委員会では2011年度の活動方針となる4つのテーマについて協議した。

◆2011年1月24日 150人出席 富士地区分科会

「地元の食文化でまちおこしー富士山ろくB級グルメルート」をテーマに、富士地区分科会を開催した。

食による地域活性化に詳しい田村秀新潟大学教授が基調講演し、「さまざまな市民が参加している所は成功している。庶民に愛されている食文化を上手に発信してほしい」と呼び掛けた。

続くパネル討論では、富士つけナポリタン、富士宮やきそばの関係者に加え、B-1グランプリで優勝した甲府鳥もつ煮の代表を招き、活動の内容や地域への波及効果について発表した。

◆2011年3月18日 130人出席 東部地区分科会

東部地区分科会は、「キラメッセぬまづー成功の軌跡と新たな可能性を検証する」をテーマに、コンベンション産業の戦略を軸に意見交換した。

1998年、沼津駅北に開館した「キラメッセぬまづ」は懇話会の提言をきっかけに計画された。「キラメッセぬまづ 12年間の成果と今後の可能性」と題して議論が交わされたパネル討論では、12年間の実績を踏まえ新たに生まれ変わる同施設を、さらに活性化するための意見が相次いだ。



浜松医大名誉教授
高田 明和
「脳は若返る一
ストレス社会を生き抜く」



新潟大学教授
田村 秀
「B級グルメは地方を救うか」



MPIジャパン理事
東條 秀彦
「コンベンションによる
都市づくり」



キーパーソンに聞く東部の将来像

静岡新聞で毎月1回、懇話会活動を広く紹介する特集記事「風は東から」。2010年度は、地域を代表するキーパーソンをお招きし、懇話会の活動方針に即したテーマについて4回シリーズで聞きました。その中から東部の将来を見通すキーワードが見えてきます。



2010年度活動方針

- 広域行政の推進支援
- ファルマバレープロジェクトの推進支援
- コンベンション機能の促進
- 富士・箱根・伊豆を束ねた広域観光の促進



各回の聞き手は懇話会のシンクタンクTESS研究員が務めました。
(左から、青山茂研究員、中山勝研究員、大石人士研究員、野村浩司研究員)

4月 ■ 伊豆を地質史からひも解く 観光の原点学ぶ旅育に期待

キーパーソン 出野勉 静岡県文化・観光部長

要旨
昭和63年をピークに、観光交流客数が5割強にまで落ち込んだ伊豆。団体旅行から個人旅行へ、物見遊山から体験型へと旅行形態が変わる中、地域の魅力をいかに構築し、発信していけばいいのでしょうか。連泊や周遊を促す観光圏や、伊豆で進むジオパーク構想など、新たな観光のトレンドについて聞きました。
地域の魅力を発掘し、伊豆のオリジナリティを打ち出すには、地道な努力と、子供のころから観光に親しみ、地域に誇りを持つ「旅育」への取り組みが必要—など、さまざまなヒントが出ました。
聞き手: 青山茂研究員(シード副社長)



5月 ■ ファルマ軸に医療・健康クラスター形成 自然生かし心のまちづくりを

キーパーソン 山口建 静岡がんセンター総長

要旨
県東部に医療・健康産業の集積を図るファルマバレープロジェクトも構想策定から10年が経ちました。医療・福祉サービス、薬剤・医療機器生産、スポーツ、観光、栄養・食品、情報、人材育成など、多岐に渡る健康サービス産業を対象に、「ものづくり」「ひとづくり」「まちづくり」が進んでいます。
過去10年間で同プロジェクトが築き上げた創薬探索システムや、ファルマバレーセンターを核に医療現場のニーズを地域のものづくり企業の技術と結びつける活動、また、住んで良かったと思える「心のまちづくり」について聞きました。
聞き手: 中山勝研究員(企業経営研究所常務理事)



6月 ■ 地方分権の受け皿整備急務 沼津・三島の歩み寄り不可欠

キーパーソン 栗原裕康 沼津市長

要旨
地方分権が加速する中、県中・西部に政令市が誕生しました。東部だけがその流れに取り残されています。激化する地域間競争に負けない、足腰の強い自治体を実現するために、何が必要か—栗原裕康沼津市長に聞きました。
東部広域合併のカギを握る沼津市と三島市については、首長同士はいうに及ばず、両市の議会、商工会議所、各種団体などが信頼関係を築けるか、また、東部地域の住民に対し、住環境が快適で、職場に恵まれているといった地域の将来像の提示が欠かせないとの指摘がありました。
聞き手: 大石人士研究員(静岡経済研究所研究部長)



7月 ■ 高いポテンシャルで学会誘致 建物の早期実現を地域が熱望

キーパーソン 後藤全弘 東部地域コンベンションビューロー前会長

要旨
沼津駅北に建設が予定されている県の大規模コンベンション施設「東部コンベンションセンター」。沼津市の総合展示施設、1300人収容可能な国際会議場などを持つ県の施設、バンケットなどに対応するホテル、立体駐車場などで構成されています。施設のオープンに先駆け、各種コンベンションを誘致する東部地域コンベンションビューローが2008年に設立されました。
ファルマバレープロジェクトや伊豆の観光産業など、この地域の特徴を生かしたコンベンションをいかに誘致するか、また、コンベンションの活性化による経済効果などについて聞きました。
聞き手: 野村浩司研究員(静岡総合研究機構首席研究員)



ファルマバレープロジェクト10年の歩み

恵まれた地域のポテンシャルを生かし、東部に医療健康産業クラスターをつくる「ファルマバレープロジェクト」。2001年に構想が策定され、翌年の静岡がんセンター開院を機に取り組みが本格化。今年、10年目の節目を迎え、さらなる高みを目指す第3次戦略計画が始まります。



ファルマ10年の成果

10年の間に、静岡がんセンター・研究所をはじめ、創薬探索から臨床試験まで一貫した医薬品開発支援の仕組みや、県内医療機関29施設、約14000床をつないだ静岡県治験ネットワークなど、ハード・ソフト両面での基盤整備が進みました。プロジェク

トにはこうした基盤を活用しようと、県内外から200を超える健康・医療分野の企業、研究所、学術機関が参加。これまでに製品化34件、特許出願件数77件などの成果が上がっています。

■ファルマバレーから生まれた成果品



ファルマバレー第1次戦略計画 (2002-2006)

- 戦略1 患者・県民の視点に立った研究開発
- 戦略2 新産業の創出と地域経済の活性化
- 戦略3 プロジェクトを担う人材育成
- 戦略4 市町との協働によるまちづくり
- 戦略5 世界に向けた展開

プロジェクトの歩み

- ・2001年度 ファルマバレー構想策定
- ・2002年度 第1次戦略計画の策定(4月)
静岡がんセンター開院(9月)
- ・2003年度 ファルマバレーセンター開設
- ・2005年度 静岡がんセンター研究所開設
- ・2007年度 第2次戦略計画の策定
- ・2011年度 第3次戦略計画の策定

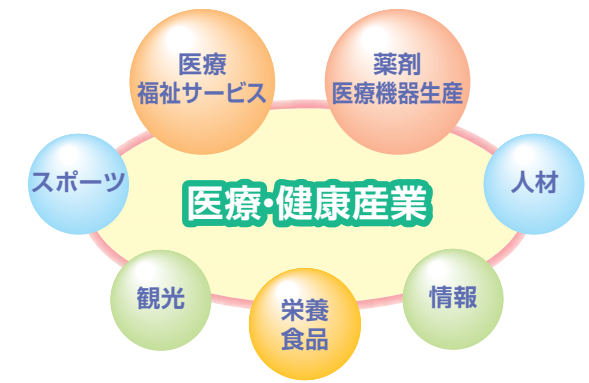
ファルマバレー第3次戦略計画 (2011-)

- 戦略1 ベッドサイドのニーズに応えるものづくり
- 戦略2 医療と産業を担うひとづくり
- 戦略3 健康サービスが充実し高次都市機能が集積したまちづくり
- 戦略4 世界展開の推進

■ファルマバレープロジェクト第3次戦略計画はじまる

「ファルマバレープロジェクト」は2011年度から新たなステージに入ります。基本理念は引き続き「世界一の健康長寿県の形成」。10年間で培ってきた成果をふまえ、「ものづくり」「ひとづくり」「まちづくり」「世界展開」の4つの視点から、医療健康産業クラスターの形成をより一層進めます。

「医療・健康」をキーワードに、「住んでよし、訪れてよし」「生んでよし、育ててよし」「学んでよし、働いてよし」の日本のモデル地域になることを目指し、同プロジェクトは新たなスタートを切ります。



■幅広い分野にまたがる医療健康産業クラスター

戦略1 ベッドサイドのニーズに応えるものづくり

プロジェクトに参画する大学や研究機関は、患者・家族及び医療従事者のニーズに基づいた最先端の研究開発をより一層推進します。

また、研究成果を活用した製品化を進め、世界市場への販売に取り組む企業の支援を強化します。

- ・戦術1：研究開発の推進
- ・戦術2：地域企業の世界展開の支援

戦略2 医療と産業を担うひとづくり

静岡がんセンターが実施してきた患者・家族の視点に立った質の高い医療従事者の育成に加え、県内への医科大学等の設置について検討を進めます。

また、地域の大学等との連携を強め、研究者・技術者の育成を図り、プロジェクトに関する高度な産業人材の育成人数の倍増を目指します。

- ・戦術1：質の高い医療人材の育成と研修システムの充実
- ・戦術2：医療現場のニーズを事業化する産業人材の育成

戦略3 健康サービスが充実し高次都市機能が集積したまちづくり

市町と連携して、企業や研究施設の誘致を積極的に進めるとともに、コンベンション機能の充実などにより、人が集い、にぎわう都市空間の創出を図り、温泉や食材などの観光資源を組み合わせた健康サービスと癒やしの提供など、健康をテーマとした地域づくりを目指します。

- ・戦術1：医療健康分野の産業集積
- ・戦術2：健康をテーマとした地域づくり
- ・戦術3：人が集まる地域づくり

戦略4 世界展開の推進

人・モノ・情報が世界から集まるとともに、プロジェクトから生まれた製品、システムやノウハウが世界に広がるような、日本の医療健康産業クラスターのモデル地域となることを目指します。

- ・戦術1：世界展開に向けた取り組みの充実



広域圏で観光振興

観光立国を標榜する日本。観光は内需だけでなく外需も取り込め、さまざまな分野への波及効果が期待できる産業です。以前にも増して、グローバル化、モータリゼーションが進む中、広域の視点なしに観光は語れません。東部でも観光圏や環富士山での観光振興が現実味を帯びてきました。



観光圏で伊豆の魅力の掘り起こしを

伊豆地区分科会 2010.07.27

テーマ 「観光圏」

要旨

観光圏は2泊3日以上滞在できるエリアづくりを進める制度で、伊豆半島2市3町（伊東、下田、東伊豆、河津、南伊豆）を圏域とする「伊豆観光圏」の整備実施計画が2010年4月に、国の認定を受けました。

伊豆地区分科会では、新たな伊豆観光の起爆剤となる「観光圏」をテーマに、地域が取り組むべき課題について議論を深めました。

●観光圏とは・・・

観光圏は国(国土交通省)が認定する。今までバラバラに行ってきた観光振興を地域が連携し一体で推進することで、国内外の観光客に2泊3日以上滞る滞在型観光をしてもらい、地域活性化につなげるのが狙い。行政、観光事業者、農林水産業者、商工業者、NPOなど地域の関連団体が連携し、また、周辺の観光地とも連携する中で、宿泊自体の魅力向上や周辺観光地への着地型旅行の開発、交通・移動手段の改善、案内・情報提供の強化などを行う。



■伊豆では2つの観光圏が認定された

伊豆地区分科会 パネリスト



石井文弥
伊豆観光圏整備推進協議会副会長



鈴木達志
伊豆体験型観光協議会会長



渡井務
県観光局長



坂元英俊
阿蘇地域振興デザインセンター事務局長



中山勝
企業経営研究所常務理事

伊豆観光圏は2市3町を圏域とし、「海へ山へ、そして温泉～海洋温泉ストーリー伊豆」をテーマに、長期滞在が可能なさまざまな体験プログラムや周遊の仕組みづくりに取り組んでいます。

パネル討論では、主に観光圏の組織の在り方や今後の活動などについて話し合いました。

中でも、観光圏に欠かせない体験型観光の充実には、まだ掘り起こされていない地域の魅力の開発と、語り部となる人材の育成、それらを商品化する観光プラットフォームの整備など、さまざまな課題が挙げられました。また、県が力を入れる「ジオパーク」は観光圏の“目玉”として進めるべきとの指摘がありました。



ニューツーリズムの台頭

体験型、着地型などといわれる旅行形態で、自然体験、歴史・文化を楽しむもの、工場見学など、幅広い分野で行われています。

地元の食文化でまちおこし

富士地区分科会 2011.01.24

テーマ

「地元の食文化でまちおこしー富士山ろく B級グルメルート」

要旨

観光に欠かせないのが食の魅力。地産地消への取り組み、その地域ならではの食材、食べ方など、地域の食文化が注目を集めています。

富士地区分科会では、富士山ろくに存在するさまざまな食の魅力に着目。中でもB級グルメとして注目されている、富士つけナポリタン、富士宮やきそば、甲府鳥もつ煮の代表を招き、環富士山で食の魅力をつなげた地域おこしの可能性を探りました。

パネル討論では、パネリストがそれぞれのB級グルメの特徴と経緯を説明。単に名物を作るのではなく、地域おこしのツールとして取り組み、いかに情報発信するかが成否を分けるといった意見が出ました。また、「活動の原動力は地域への熱い思い」や「市民自身がまちを誇りに思う気運が醸成された」との発言が相次ぎました。討論の最後には「環富士山B級グルメの旅」が提案されました。



富士宮フードバレー構想

富士宮市が取り組む食のまちづくり「フードバレー構想」。富士宮やきそばの知名度とあいまって食と言えば富士宮というほど、地域のブランド力が高まっています。

東部の広域的な交流機能を高めるための中核的施設として大型のコンベンション会場と、新たな展示イベントホールなどをもつ多機能型コンベンション施設「東部コンベンションセンター」がJR沼津駅北口周辺に計画されています。



キラメッセぬまづ - 12年の歴史に幕

東部地区分科会 2011.03.18

テーマ

「キラメッセぬまづ～成功の軌跡と新たな可能性を検証する～」

要旨

懇話会の提言をきっかけに1998年に誕生した「キラメッセぬまづ」。12年の歴史に幕を閉じ、2013年新生キラメッセぬまづが誕生します。

パネル討論では、キラメッセの誕生や運営にかかわった人々をパネリストに迎え、高い稼働率の秘密や、今後の施設運営について議論しました。



東部地区分科会 パネリスト



東條秀彦
MPIジャパン理事



中山勝
企業経営研究所常務理事

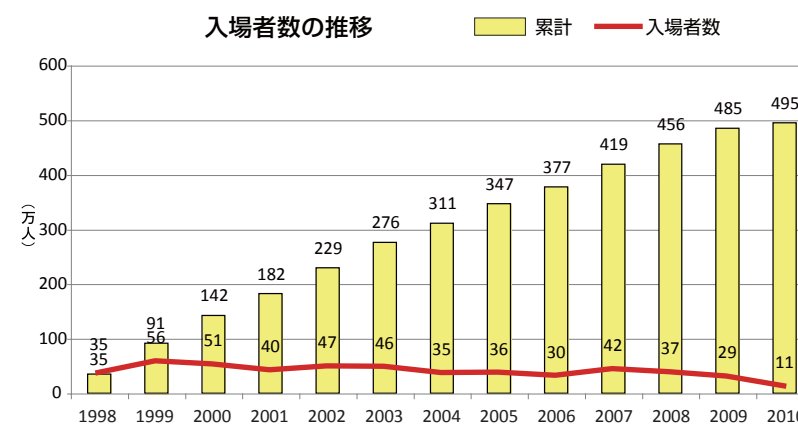


内村博隆
沼津市都市計画部長

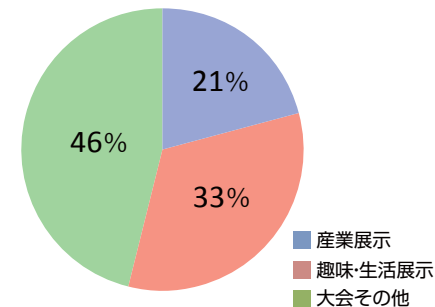


青山茂
シード副社長

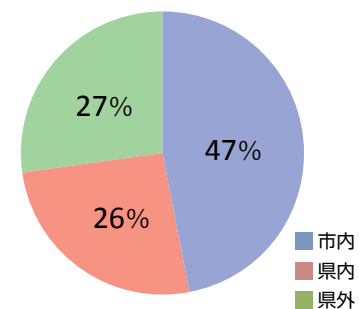
数字で見るキラメッセぬまづ



利用業種別割合



利用件数の割合

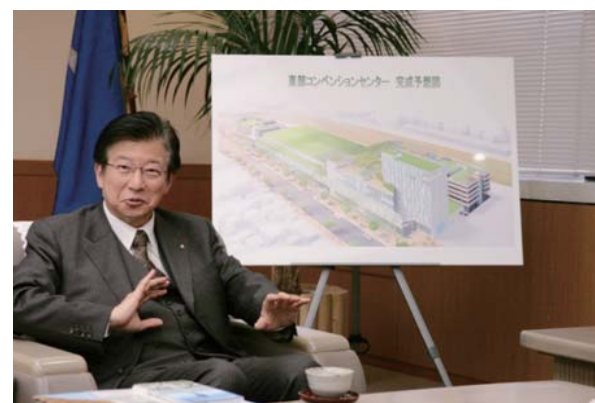


12年間で平均稼働率73%、累計黒字1.8億円という優良展示場となったキラメッセぬまづ。パネル討論ではその秘密が明らかになりました。

- ・地域に見合った規模で、利用料を極力抑えた
- ・JR沼津駅前という立地の良さ
- ・トラックが乗り付けられるなど搬入が楽
- ・基本コンセプトは「日本一親切で使いやすい施設」
- ・関係者が週1回、運営方法から駐車場台数、自販機の数まで徹底して検討 など

新生キラメッセぬまづにもこうしたコンセプトは着実に受け継がれていきます。

新たなにぎわいの核 - 東部コンベンションセンター



完成予想図を説明する川勝平太知事

整備主体	施設	床面積	内容
県	会議場	15,361㎡	メイン会議場(最大収容人数約1300人)、大会議室、中小会議室、県特産飲食物販売コーナー、駐車場など
沼津市	展示イベント施設	8,841㎡	展示面積約3900㎡、市民ギャラリー約620㎡
	駐車場	9,908㎡	480台
民間事業者(大和ハウス工業)	ホテル	7,491㎡	11階、客室総数150室、レストラン、バー、駐車場など

東部コンベンションセンターの施設概要

東部の広域的な交流機能を高めるための中核的施設として、大型のコンベンション会場と、新たな展示イベントホールなどをもつ多機能型コンベンション施設「東部コンベンションセンター」がJR沼津駅北口周辺に計画されています。

富士山を間近に望み、アフターコンベンションに最適

な一大リゾート「伊豆」を抱えた好立地を生かし、さまざまなコンベンションの開催が期待されています。その実現には「もてなしの心」をベースに、産業特性を生かした戦略的な誘致計画(ロードマップ)が必要です。

東部80万都市のにぎわいの核として、一日も早いコンベンションセンター開設が望まれています。

平成の大合併が終わり、依然空白が目立つ東部の合併地図。行政主導の合併に限界を感じる中、経済圏・生活圏に、より即した「暮らしやすい」「安全で安心な」将来像が今、求められています。こうした社会的背景から、経済界が主体となり、東部のグランドデザインを描こうという動きが始まっています。



空白が目立つ東部の合併地図

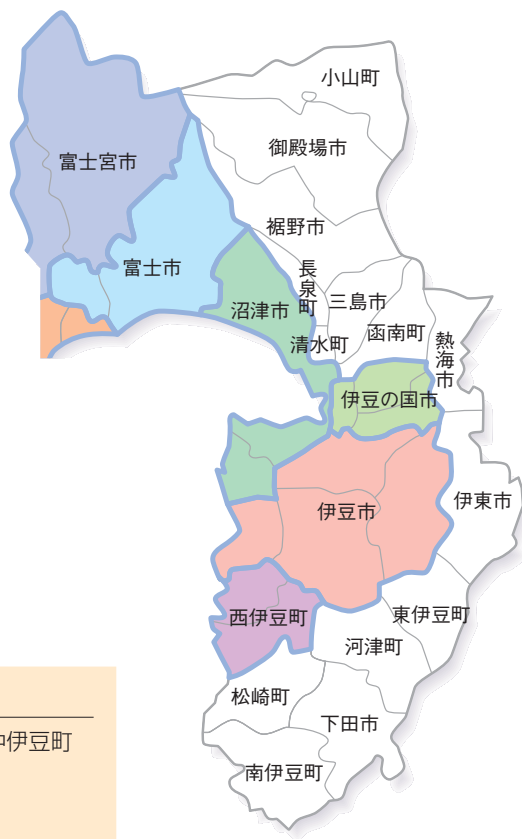
昨年3月で合併新法が終わり、4月に施行、10年延長された現行法は財政支援の“アメ”はないものの、合併後に地方交付税が急減しないよう優遇算定する制度など合併の障害を取り除く仕組みを残し、自主的な合併を支援する内容に変わりました。

東部では、9市町の行政トップたちが政令市を目指した「東部広域都市づくり研究会」での議論が不調に終わり、研究会も解散したままです。

このまま地域主権の受け皿となる体制づくりを進めなければ、激化する地域間競争に埋没するのは目に見えています。将来的に道州制となった場合、「中部」に入ろうか「南関東圏域」に入ろうか、東部が「端」になることは明らか。その時に政令市はおろか、中核市もない東部地域の声はたして中央に届くのでしょうか。自立した経済圏として存在感を発揮するためにも、地域のグランドデザインを描くことは重要です。

東部合併の経緯

合併年月日	新市町名	関係市町村
2004.04.01	伊豆市	修善寺町、土肥町、天城湯ヶ島町、中伊豆町
2005.04.01	沼津市	沼津市、戸田村
2005.04.01	伊豆の国市	伊豆長岡町、菰山町、大仁町
2005.04.01	西伊豆町	西伊豆町、賀茂村
2008.11.01	富士市	富士市、富士川町
2010.03.23	富士宮市	富士宮市、芝川町



■東部は約半数の市町が合併未経験

東部にふさわしい「多極分担型地域構造」

こうした中、県東部の経済人たちを中心に、東部地域の明確なグランドデザインを描こうという機運が高まっています。

静岡経済同友会東部協議会は昨年11月の月例会でテーマに取り上げたのに続き、2月には首長たちをパネリストに迎え、公開セミナーを開きました。

裾野、沼津、御殿場、三島の4市と小山、長泉、函南の3町の首長（三島市は副市長）がパネル討論し、合併への見解を述べました。従来と同様に市町の見解は分かれてきましたが、機運を高める土台として、自治体の枠を越えた県東部のグランドデザインをつくることで合意しました。



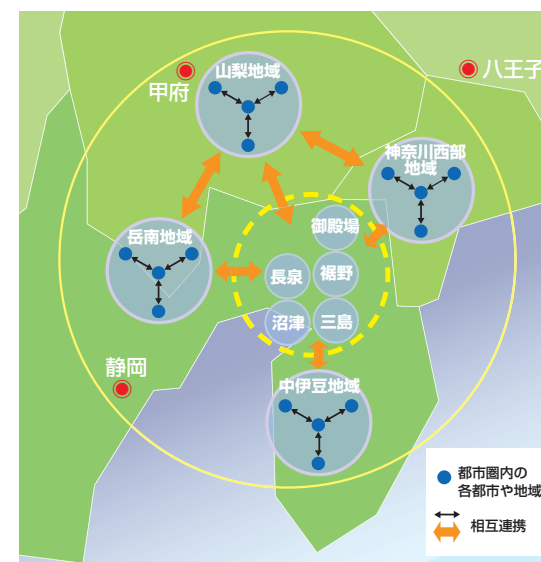
■静岡経済同友会東部協議会の公開セミナー

懇話会は、東部地域の特性から中西部のような一極集中型でなく、「多極分担型の地域構造」がふさわしいと以前から提言を行ってきました。

多極分担型地域構造は、中心となる町が一つでなく、それぞれの町が異なる機能を持ち、かつ交通路線が発達したターミナル性を持っていること。公共交通で一時間圏を一つの単位とし、そのほかの地域とは高速道路や飛行機などの高速交通網でつながっているイメージです。

東部には利便性の高い交通網を背景に、多くの産業が集積しています。歴史ある街がそれぞれに機能を持ち、文化を育み、自然も豊か。まさに、多極分担型地域構造にふさわしい条件が整った場所です。

数年後には沼津駅北に大型コンベンション施設ができ、第2東名や伊豆縦貫道整備がさらに進みます。県中部、西部のような一極集中型ではなく、複数の都市が経済や教育、文化・スポーツなどの機能を分担し、連携しながら地域全体の発展を図る「分担型の地域構造」がより鮮明になってくるでしょう。



■懇話会が提言した多極分担型地域構造イメージ

東部の経済圏・生活圏の一体化が加速

進む道路網整備

昨年7月、東駿河湾環状道路が一部開通しました。主に伊豆方面への車の流れが大きく変わり、沿線では新しい観光施設の出店も予定されています。3年後には伊豆中央道と結ばれ、利便性がさらに高まります。

3年後の東駿河湾環状道路の全線開通にあわせて、まちづくりに力を入れているのが函南町。中心市街地の整備とともに、ファルマバレープロジェクトによる産業振興、観光振興を図る予定です。



サンフロントから情報発信

ラジオ EAST

www.at-s.com/sbsradio/program/east/

SBS ラジオ 毎週土曜日
11:00 ~ 12:55

サンフロント21懇話会が母体となり、東部・伊豆の地域情報を2時間にわたりお送りする「Radio*East」。清水町の大型ショッピングセンター、サントムーン柿田川内に開設されたサテライトスタジオ「LISPA」は東部・伊豆の情報

発信、文化創造拠点としてにぎわいを見せています。

番組恒例の公開放送は全部で7回。各地のイベントや魅力スポット、地元でしか食べられないご当地グルメ情報などをお送りしています。



ラジオ EAST ホームページ

ホームページでは、番組で取り上げた話題を写真とテキストで紹介しています。「EASTたべちゃうぞ!」をはじめ「温泉へ行こう!」「花ごよみ」各コーナーはバックナンバーも充実。東部・伊豆にお出かけの際はぜひご利用下さい。

URL <http://www.at-s.com/sbsradio/program/east/>



新聞特集記事「風は東から」

www.sunfront21.org/

静岡新聞東部版・朝刊
毎月 第4日曜日掲載

東部地域の活性化に向けたさまざまな取り組みや、サンフロント21懇話会の活動の一端を毎月1回、新聞紙上で紹介する「風は東から」。

連載13年目を迎え、昨年は東部活性化のカ

ギを握る4人のキーパーソンにインタビューを行いました。また、地域の埋もれた魅力を観光に生かす「ニューツーリズム」や整備が進む東駿河湾環状道路などを取り上げました。



サンフロント21 懇話会 ホームページ

懇話会活動がひと目で分かるホームページ。懇話会の設立趣旨・沿革をはじめ、新聞「風は東から」のバックナンバーや、1年間の活動をまとめた冊子「飛躍」などが閲覧できます。

URL <http://www.sunfront21.org/>



2011 年度活動方針

■ 広域行政の推進支援

県東部の市町が競争力あるビジョンを打ち出し、その実現にふさわしい規模となるためには、共通の認識と広域的視点が欠かせない。とりわけ、沼津市と三島市には積極的な共同歩調とリーダー役を期待したい。サンフロント21懇話会は

両市を中心とした広域行政の実現に向け、経済団体などと協調し、グランド・デザインの作成に着手する。同時に各市町と連携し、具体的な動きを導き出すための共通の議論の場づくり、住民への啓蒙活動に取り組む。



■ ファルマバレープロジェクトの推進支援

県は2011年度、さらなる研究開発の促進と健康産業の振興・集積に向け、ファルマバレープロジェクトの第3次戦略計画（2011年度～20年度）をスタートさせる。

具体的には、ものづくり（医療機器など地元企業の研究開発・事業支援）、ひとつづくり（医療

人材・産業人材の育成）、まちづくり（医療健康産業クラスター形成など）、世界展開の推進（世界への販路開拓など）が想定される。サンフロント21懇話会は地域産業活性化の支援、沼津市の医療産業都市構想などを含め、ファルマバレープロジェクトを支援していく。

■ コンベンション機能の促進

2010年11月、東部コンベンションセンター整備事業に関わる企業グループと県、沼津市が基本協定を結び、展示イベント施設、コンベンション施設などの建設に向け、一歩を踏み出した。サンフロント21懇話会はコンベンション事業を県東部の未来を切り開く地域戦略として位置づけ、各市町に重要性を訴える。アフターコンベンションなどコンベンションの持つ多様な事業性を活用する方策を検討、協議する。



■ 富士・箱根・伊豆を束ねた広域観光の促進



富士山静岡空港を伊豆への誘客につなげるには、広域的な視点で観光戦略を構築する必要がある。サンフロント21懇話会は静岡・山梨・神奈川3県の広域連携の強化を目指す。特に静岡・山梨両県の官民でつくる日本富士山協会（事務局・山梨県富士吉田市）に協力し、環富士山地域の連携強化を支援する。「富士山一周ドリームウォーク」や、伊豆の一体感醸成に向けジオパーク（価値ある地形・地質遺産の保全、活用）構想など既存事業の周知支援を継続し、一段の観光交流の促進を目指す。

会員名簿

氏名	会社名	役職	氏名	会社名	役職
青木喜代司	青木興業(株)	代表取締役	岩崎 利洋	東タイ(株)	工場長
青木 昇	静岡県賀茂地域支援局	局長	岩崎 孝	(株)岩崎米穀	代表取締役
青山 茂	(株)シード	取締役副社長	板倉 正	Knt!近畿日本ツーリスト(株)	支店長
赤堀 肇紀	赤武エンジニアリング(株)	代表取締役社長	乾 朋義	(株)大村総業	代表取締役社長
秋山 佳彦	(株)秋山機器	代表取締役社長	岩田 均	(株)SBS プロモーション	代表取締役社長
秋山 勇雄	静岡新聞社	常務取締役	植草慎一郎	(株)康報社 植草新聞店	代表取締役社長
秋元 久則	(有)静岡ビジネスサポート	代表取締役	植松 眞	(株)トーヨーアサノ	代表取締役
浅羽 愛子	あさば旅館酒翠閣	代表取締役	臼井 良太	白幸産業(株)	代表取締役
芦川 勝年	沼津市商店街連盟	会長	鶴澤 精一	熱海商工会議所	会頭
芦川 均	スルガコンピューターサービス(株)	代表取締役社長	内田 豪	(株)ダイナナ	代表取締役社長
芦川 弘之	静岡県田子の浦港管理事務所	所長	内田 隆久	伊豆一不動産(株)	代表取締役
畔上 吉陽	ネットヨタスルガ(株)	代表取締役社長	内田 文喬	内田法律事務所	弁護士
綾部 恵市	(株)綾市商店	代表取締役社長	内田 賢	静岡県富士土木事務所	所長
有賀 俊介	静岡県富士財務事務所	所長	宇野 統彦	(株)桃中軒	社長
安藤 肇	(株)フジコムインターナショナル	代表取締役	海野 和雄	静岡ガス(株)	常務執行役員東部支社長
飯田 悦郎	飯田工業薬品(株)	代表取締役	遠藤 茂美	日本ガス興業(株)	代表取締役社長
伊海 剛志	(株)イカイ	代表取締役社長	遠藤 忠男	(有)遠藤新聞舗	代表取締役
井口 賢明	あさひ総合法律事務所	所長	遠藤 敏東	富士商工会議所	会頭
池田 誠	池田病院	院長	遠藤日出夫	長泉町	町長
石井 大介	(株)富陽軒	代表取締役	大石 人士	(財)静岡経済研究所	研究部部长
石井 直樹	下田市	市長	大石 剛	静岡新聞社	常務取締役
石井 文弥	一般社団法人 伊東観光協会	会長	大石 義治	静岡県東部健康福祉センター	所長
石井 誠	(株)石井組	取締役副社長	大塩 秀樹	黄瀬川自動車学校	代表取締役社長
石井 良雄	東海自動車(株)	取締役社長	大浦 孝雄	愛車の救急車(有)	代表
石上 政弥	静岡県下田財務事務所	所長	大嶽 正泰	宗教法人 三明寺	代表役員
石川 眞	(株)丸石製作所	代表取締役	大坪 檀	静岡産業大学	学長
石川 三義	社会福祉法人 春風会	理事長	大野 数芳	(株)大野商店	代表取締役
石川雄一郎	石川建材工業(株)	代表取締役社長	大山 邦雄	沼津市立病院	病院長
石川 征雄	(株)ミツイシ	代表取締役	大村 義政	沼津埠頭(株)	代表取締役
石山 隆治	静岡新聞社	常務取締役	大須賀紳晃	静岡新聞社	編集局長
磯田 悟	独立行政法人 都市再生機構	所長	大橋 俊二	裾野市	市長
稲葉 常宏	スルガ総合保険(株)	代表取締役社長	太田 長八	東伊豆町	町長
伊丹 秀之	(有)松韻	取締役社長	太田 貴久	(株)ブレーン	代表取締役
伊東 哲夫	伊東法律事務所	所長	小笠原一夫	宇徳通運(株)	代表取締役社長
伊藤 澄男	(有)澄企画	代表取締役	尾形 充生	(株)静岡中央銀行	相談役
伊藤 副武	静岡県賀茂農林事務所	所長	岡野 光喜	スルガ銀行(株)	社長
稲田 精治	三島信用金庫	理事長	岡本 武	静岡県東部地域支援局	局長
井上 謙吾	(株)しずおか産業創造機構 ファルマバレーセンター	所長	荻田 勝雄	富士急伊豆タクシー(株)	代表取締役
井原 伸二	スルガ銀行(株)	営業本部 シニアアドバイザー	刑部 治	(有)啓伸社 刑部新聞店	代表取締役

氏名	会社名	役職	氏名	会社名	役職
小澤 誠	静岡新聞社・静岡放送	企画事業局長	小滝 すみ子	(株)三喜	代表取締役
小野 徹	小野建設(株)	代表取締役	小滝 勝昭	富士信用金庫	理事長
小野寺恭敬	静岡県総合健康センター	所長	後藤 全弘	(株)ゴトー	相談役
小原 嘉弘	小原自動車工業(株)	代表取締役	後藤 行宏	(株)ゴトー	代表取締役社長
片山 劫	伊豆総合産業(株)	代表取締役社長	後藤 義男	沼津魚仲買商協同組合	理事長
貝原 敏哉	貝原司法書士事務所	代表者	小林 省吾	(株)小林製作所	代表取締役会長
影山 桓義	(株)影山運輸	代表取締役	小林 俊夫	(株)東報	代表取締役
勝又 高雄	日本電気(株)	支店長	込山 正秀	小山町	町長
勝又 敏雄	(株)カジマヤ	代表取締役社長	近藤 安敏	近藤鋼材(株)	代表取締役会長
勝又 安彦	(株)勝又新聞店	代表取締役	近藤 良夫	近藤良夫会計事務所	所長
勝又 寛治	(株)沼広	代表取締役	齋 秀	(株)東海建設コンサルタント	代表取締役
勝又 規雄	ライオンファイル(株)	代表取締役社長	齋藤 栄	熱海市	市長
勝間田芳壽	(学)東駿学園 御殿場西高等学校	理事長	齋藤 大	伊東ガス(株)	代表取締役社長
勝間田久嗣	二葉建設(株)	代表取締役社長	齋藤 哲一	三幸興業(株)	代表取締役社長
桂 英治	静岡放送	常務取締役	斉藤 文彦	松崎町	町長
加藤 和彦	(株)コーゲツ	代表取締役	齋藤 稔	(株)斉藤組	代表取締役社長
加藤 修一	(株)加藤工務店	代表取締役	齋藤 規夫	富士紙管(株)	代表取締役
加藤 博彦	(株)メディアクリエイト	代表取締役	七種 精一	シードテクノ(株)	代表取締役
加藤 昌利	(株)ホテル銀水荘	代表取締役社長	佐伯 隆彰	(有)佐伯新聞店	代表取締役
加藤瑠美子	学校法人 加藤学園	副理事長	坂本 光司	法政大学大学院	教授
片淵 典利	(株)港	代表取締役	桜井 末廣	(株)ブケ東海	代表取締役社長
川原崎康雄	(株)マキヤ	代表取締役	佐々木道武	大成サービス(株)	浜松営業所長
河西 幸一	明德建設(株)	代表取締役	佐藤 貢一	米久ペンディング	専務取締役
影島 山弘	(株)黎明社	専務取締役	佐藤三武朗	日本大学国際関係学部	学部長
菊地 豊	伊豆市	市長	佐藤 隆泰	(株)静岡銀行 東部カンパニー	常務執行役員
菊地 広明	大東紡エステート(株)	取締役社長	佐藤 秀樹	(株)サトウ商会	代表取締役
杵島 栄二	(有)高商	代表取締役	佐藤 宗徳	(株)佐藤建設	取締役 管理部長
北岡 貴人	(株)暖香園	代表取締役社長	佐藤 孝行	沼津魚市場(株)	代表取締役社長
喜多 晋	静岡県沼津財務事務所	所長	佐野 武男	丸富製紙(株)	代表取締役社長
北村 敏廣	静岡新聞社	代表取締役専務	佐野 正幸	(有)佐野新聞店	代表取締役
木戸 英壽	沼津商工会議所	専務理事	佐野 茂樹	青木建設(株)	代表取締役
木村美都子	木村美都子税理士事務所	税理士	澤入 義幸	スルガ銀行(株)	執行役員
木宮 健二	富士常葉大学	学長	澤野 幸男	スルガカード(株)	代表取締役専務
君澤 安生	(株)CFS コーポレーション	専務取締役	篠原松太郎	オブリック(株)	代表取締役社長
栗原 裕康	沼津市	市長	塩田 勇	(株)まるく	代表取締役
黒崎 昇	三栄レギュレーター(株)	社長	斯波 幹和	(株)サン	代表取締役社長
倉田 俊彦	静岡県富士工業技術支援センター	センター長	庄司 清和	(株)時之栖	代表取締役社長
河野 貢	(株)かめや	代表取締役社長	榛葉 英二	静岡放送	報道局長
小島し乃ぶ	三友水処理(株)	代表取締役	杉山 定久	南富士産業(株)	代表取締役社長

会員名簿

氏名	会社名	役職
杉山正一郎	御殿場農業協同組合	代表理事組合長
杉山 洋	東京海上日動火災保険(株)	課長
杉山 壽章	(株)杉山鉄工	代表取締役
杉山 敏夫	(株)ホンダカーズ静岡	代表取締役
杉浦 悌秀	(株)ユタカ	代表取締役
杉田 至弘	静岡新聞社・静岡放送	常勤顧問
鈴木 和江	観音温泉	代表取締役社長
鈴木 和宏	御殿場高原ビール(株)	代表取締役
鈴木史鶴哉	南伊豆町	町長
鈴木 経康	沼津情報・ビジネス専門学校	校長
鈴木 尚	富士市	市長
鈴木 文三	サンコー防災(株)	代表取締役
鈴木 道也	南駿農業協同組合	代表理事組合長
鈴木 幸彦	清水物産(株)	代表取締役社長
鈴木 敏博	静岡県沼津工業技術支援センター	センター長
須田 徳男	(株)MYコミュニケーションズ	代表取締役会長兼社長
須藤 秀忠	富士宮市	市長
諏訪部恭一	沼津信用金庫	会長
諏訪部照久	(株)スワベ商会	代表取締役社長
諏訪部敏之	丸善工業(株)	会長
清 哲也	(株)大石組	代表取締役社長
関本 文彦	東海金属工業(株)	代表取締役会長
関 鉄雄	静岡県賀茂健康福祉センター	所長
相馬 宏行	河津町	町長
高田 菊平	ニューデルタ工業(株)	代表取締役会長
高瀬 直樹	(株)伊豆新聞本社	代表取締役社長
田代 寿夫	(株)田代新聞センター	代表取締役
伊達 耿介	(株)ビック東海	本部長付担当部長
谷 和実	(財)静岡総合研究機構	副理事長
谷川 治	静岡新聞社・静岡放送	取締役東部総局長
千葉 慎二	(株)AS - SZKi	代表取締役社長
塚脇 洋	沼津東急ホテル	総支配人
佃 弘巳	伊東市	市長
辻 明久	(有)メイク・エンタープライズ	代表取締役
土屋 順一	東海建設(株)	代表取締役
土屋 俊幸	(株)静岡銀行 沼津支店	執行役員沼津支店長
土屋 紀雄	(株)土屋建設	代表取締役
土屋 幹夫	(株)幹洋堂土屋新聞店	代表取締役
土屋雄二郎	雄大(株)	代表取締役

氏名	会社名	役職
土屋龍太郎	土屋建設(株)	社長
土屋 誠司	(株)富士和	代表取締役会長
土谷 直人	ニッセー防災(株)	代表取締役
堤 親朗	(株)イブラシ	代表取締役
出口 明利	(株)デグチホームズ	代表取締役
出向 永典	積水ハウス(株)	支店長
寺嶋 晋	マックスバリュ東海(株)	代表取締役社長
轟木 裕史	(株)アルテクス	代表取締役
豊岡 武士	三島市	市長
永倉 聡	沼津通運倉庫(株)	代表取締役社長
中嶋 三恵	(株)山六ひもの店	代表取締役
中野 篤	静岡県東部農林事務所	所長
中山 勝	(財)企業経営研究所	常務理事
長澤 一成	(株)耕文社	代表取締役社長
長島 郁夫	静岡県沼津土木事務所	所長
永橋 克介	住友生命保険相互会社沼津支社	支社長
中村 誠	島津急送(株)	代表取締役
成川 昭雄	(株)エム・エス・エス	取締役
西島 昭男	(株)シード	代表取締役社長
西島 洋司	医療法人社団親和会 西島病院	理事長
野間由香利	アフラック 沼津支社	支社長
野村 玲三	(株)野村商店	代表取締役社長
野村 浩司	(財)静岡総合研究機構	主席研究員
萩原 仁	(株)JTB 中部 沼津支店	支店長
花房 孝光	(株)はなぶさ旅館	代表取締役
羽野 久雄	羽野水産(株)	代表取締役会長
服部徹一郎	(株)チキリ	代表取締役社長
林 和子	ハヤシ工業(株)	代表取締役
原 和也	静岡放送	ラジオ局長
原 浩之	学校法人 原学園	理事長
原口 茂	富士商事(株)	代表取締役
一杉 真城	ヒトスギ塾	会長
兵藤 真一	東方之光 (EMO-インターナショナル)	広報担当
日向 秀二	(株)日弘商会	代表取締役
平野 幸雄	富士通(株)静岡東部支店	支店長
福山 重紀	(株)エイワンススポーツプラザ	代表取締役
藤井 明	米久(株)	代表取締役社長
藤井 武彦	西伊豆町	町長
藤浪 譲治	SBS メディアサービス(株)	代表取締役社長

氏名	会社名	役職
古井 敏夫	静岡県中小企業団体中央会東部事務所	所長
古川 敏男	静岡県熱海財務事務所	所長
堀内光一郎	富士急行(株)	取締役社長
堀口 武彦	大同工業(株)	代表取締役
牧村 久夫	総合警備保障(株)	支社長
増島 康行	静岡県熱海土木事務所	所長
松井 純	静岡新聞社・静岡放送	取締役社長
松田 達也	ネットヨク静岡(株)	代表取締役社長
松永 公良	沼津市商工会	会長
三浦 洋一	大和ハウス工業(株)	支店長
三澤 清利	特種東海製紙(株)	代表取締役社長
三澤 賢治	シンフジハイヤー(株)	代表取締役
三津濱元一	富士通(株)沼津工場	工場長
宮本 修	(株)キクチ	代表取締役
宮尾 賢一	(株)損保ジャパン静岡支店 沼津支社	支社長
峰田 武	(財)佐野美術館	理事長
三輪 俊城	ホテル沼津キャッスル	代表取締役
村松 重治	静岡新聞社・静岡放送	取締役営業局長
村松 夏夫	静岡新聞社	取締役販売局長
室伏 勝宏	みしまプラザホテル	代表取締役
最川 治久	(株)モガワ	代表取締役会長
望月 照元	西日本電信電話(株)	支店長
望月 良和	伊豆の国市	市長
望月耕二郎	学校法人 旭学園	理事長・校長
望月 昇	(有)フジビジネス	取締役社長
望月 由郎	(株)SBS 情報システム	代表取締役社長
元村 秀樹	麒麟ビール(株)	営業部長
森 正憲	(株)安心堂沼津店	店長
森 延彦	函南町	町長
森 久人	(有)アラリシップビルダーズ	代表取締役
森 一浩	ひばり税理士法人	代表社員
森崎 祐治	静岡コンサルタント(株)	代表取締役
森田 金清	一般社団法人 熱海市観光協会	代表理事
八重 英俊	日本興亜損害保険(株)	支社長
矢田 利雄	沼津米穀卸(株)	代表取締役社長
矢田部正巳	三嶋大社	宮司
矢野 公司	野村證券(株)沼津支店	支店長
山内 倭子	(株)東興	代表取締役
山形 武弘	一般社団法人 三島市観光協会	会長

氏名	市町	役職
山下 郁夫	(株)三鮮商事	代表取締役
山田 憲市	(株)コスモスケアサービス	代表取締役
山田 司	静岡新聞社・静岡放送	東部総局長兼業務部長
山田 英継	日本製紙(株)	常務取締役工場長
山村 留久	静岡県下田土木事務所	所長
山本 博保	清水町	町長
山本 弥之	(株)太洋社	代表取締役
山本 辰美	(株)そごう・西武 西武沼津店	店長
山本 英一	(株)東平商会	代表取締役会長
山本 倫弘	奈良橋・山本会計事務所	代表社員税理士
吉野日出夫	(株)関電工静岡支店	支店長
若林 久	伊豆箱根鉄道(株)	取締役社長
若林 洋平	御殿場市	市長
和久田恵子	(株)ダイワ・エム・ティ	代表取締役社長
渡辺 忠昭	三島商工会議所	専務理事
渡辺幸一郎	(株)三島新聞堂	代表取締役
渡邊 芳久	(株)伊豆フェルメンテ	代表取締役社長
渡邊 治彦	静岡新聞社・静岡放送	取締役社長室長
渡邊 昌信	(株)電業社機械製作所	代表取締役会長
力元 東	静岡県富士農林事務所	所長

幹事・委員

幹事(50音順、敬称略)

氏名	会社名	役職	住所
遠藤 敏東	富士商工会議所	会頭	富士市
尾形 充生	(株)静岡中央銀行	相談役	沼津市
岡野 光喜	スルガ銀行(株)	社長	沼津市
北岡 貴人	(株)暖香園	代表取締役社長	伊東市
佐藤 隆泰	株静岡銀行 東部カンパニー	常務執行役員	沼津市
諏訪部恭一	沼津信用金庫	会長	沼津市
藤井 明	米久(株)	代表取締役社長	沼津市
峰田 武	(財)佐野美術館	理事長	三島市
三澤 清利	特種東海製紙(株)	代表取締役社長	駿東郡
矢田部正巳	三嶋大社	宮司	三島市

運営委員(50音順、敬称略)

氏名	会社名	役職	住所
井口 賢明	あさひ総合法律事務所	所長	沼津市
池田 誠	池田病院	院長	駿東郡
内田 隆久	伊豆一不動産(株)	代表取締役	伊豆の国市
宇野 統彦	(株)桃中軒	社長	沼津市
小野 徹	小野建設(株)	代表取締役	三島市
片山 劼	伊豆総合産業(株)	代表取締役社長	伊東市
勝又 規雄	ライオンファイル(株)	代表取締役社長	裾野市
諏訪部照久	(株)スワベ商会	代表取締役社長	駿東郡
土屋 紀雄	(株)土屋建設	代表取締役	下田市
西島 昭男	(株)シード	代表取締役社長	三島市
羽野 久雄	羽野水産(株)	代表取締役社長	沼津市
一杉 真城	ヒトスギ塾	会長	沼津市
室伏 勝宏	みしまプラザホテル	代表取締役	三島市

<地域支援局>

青木 昇	静岡県賀茂地域支援局	局長
岡本 武	静岡県東部地域支援局	局長

<アドバイザー>

大坪 檀	静岡産業大学	学長
坂本 光司	法政大学大学院	教授

<常任顧問>

伏見 一成	静岡新聞社・静岡放送	浜松総局長
篠原 光秋	(株)SBS 情報システム	取締役副会長

<TESS 構成員>

西島 昭男	(株)シード	委員長
井口 賢明	あさひ総合法律事務所	顧問
羽野 久雄	羽野水産(株)	顧問
内田 隆久	伊豆一不動産(株)	委員
宇野 統彦	(株)桃中軒	委員
小野 徹	小野建設(株)	委員
諏訪部照久	(株)スワベ商会	委員
青山 茂	(株)シード	研究員
大石 人士	(財)静岡経済研究所	研究員
中山 勝	(財)企業経営研究所	研究員
野村 浩司	(財)静岡総合研究機構	研究員